

2018年3月22日／浪宏友ビジネス縁起観塾

原因・条件・結果・影響の原理

1. 概要

(1) 資料

増谷文雄著『阿含經典1』(ちくま学芸文庫)／存在の法則(縁起)に関する經典群／開題
庭野日敬著『法華三部經 各品のあらましと要点』佼成出版社

(2) 主題

釈迦牟尼世尊の教えの根幹をなすと言われる「縁起の法」について、基礎的なことを学びたいと思います。

2. 釈尊の正覚

(1) 増谷文雄博士の解説

増谷文雄博士は、「存在の法則(縁起)に関する經典群」の「開題」の冒頭で、次のように述べています。

「『縁起』とは、申すまでもなく、釈尊の正覚の内容をいう術語である。釈尊がブツダと称せられるにふさわしい者となったのは、その正覚を成就したその時からのことであり、その正覚を源泉として、そこから、仏教と称せられるものごとくが流れでてくるのである」(増谷文雄編訳

『阿含經典1』ちくま学芸文庫、p.118)

(2) 釈尊の正覚

ここでは、次の二つのことが述べられています。

「釈尊の正覚の内容は縁起である」

「釈尊の正覚を源泉として、仏教と称せられるものごとくが流れでてくる」

3. 縁起とは

(1) 増谷文雄博士の解説

増谷文雄博士は、「縁起」について、次のように述べています。

「『縁起』とは、面白い言葉である。それは、『縁(よ)りて』ということばと、『起ること』ということばとが結合して成ったことばである。

つまり、なんらかの先行する条件があって生起すること、というほどの言葉であって、それを翻訳して中国の訳経者たちは、『縁起』なる術語を造成したのである。

詮ずるところ、それは、一切の存在を関係性によって生成もしくは消滅するものとして捉える存在論である」(増谷文雄編訳『阿含經典1』ちくま学芸文庫、p118-119)

(2) 存在論

大雑把に言えば、存在論とは「すべてのものごとは、こうなっている」と考えることです。

「すべてのものごとは、神さまが造った」と考える存在論があります。

「すべてのものごとは、もとになるものから生まれた」と考える存在論があります。

「すべてのものごとは生じたり滅したりしている」と考える存在論があります。

(3) 縁起

「縁起」は、「すべてのものごとは関係しながら生じたり滅したりしている」と考える存在論です。

4. 釈迦牟尼世尊の説法

(1) 増谷文雄博士の解説

釈迦牟尼世尊の説法について、増谷文雄博士は、次のように述べています。

「そこ(釈迦牟尼世尊の説法)には、

縁起とはどのようなことであるかも語られている。

それ(縁起)がわれらの問題といかにかかわるかも語られている。

それ(縁起)を私(釈迦牟尼世尊)はいかに考えたかも語られており、

あるいは、汝ら(弟子たち)はいかに考えるべきかも説かれている。

それらのことが、あるいは具体的に説かれ、あるいは譬喩をもって説かれている」

(増谷文雄編訳『阿含経典1』ちくま学芸文庫、p.121)

(2) 釈迦牟尼世尊の説法

釈迦牟尼世尊の説法のすべてが、正覚の内容である「縁起」から生まれているのです。

5. 釈迦牟尼世尊の用いた術語について

(1) 増谷文雄博士の解説

縁起に関する用語について、増谷文雄博士は、次のように述べています。

「そこで、申しのべておかねばならぬと思うことは、それらの経典群において、釈尊がこの存在の法則について語られる時に用いられる術語のことである。

それはかなり多様であった。なんとなれば、かの師は、そのことを語るにあたって、いろいろの角度から、さまざまの表現をもってそのことを語りたもうたからである」

(増谷文雄編訳『阿含経典1』ちくま学芸文庫、p.121)

(2) 縁起に関する一般的な熟語

釈迦牟尼世尊の正覚の内容である存在の法則に関する一般的な術語として、増谷文雄博士は、次の六つを上げています。(増谷文雄編訳『阿含經典 1』ちくま学芸文庫、p. 121~123)

縁起：「縁りて起ること」というほどの意のことば。一切の存在の関係性を表現する。

縁生：「縁起の法則によって生ずる」というほどの意。縁滅という表現もある。

因縁：「結びつけられていること」というほどの意

因と縁：「因」「縁」ということばも用いられるが、意味は「因縁」とほぼ同じである。

相依性：サーリプッタ(舎利弗)は「二つの蘆束は互いに相依りて立たん」と説いた。

縁起の公式：増谷文雄博士は、次の表現を「縁起の公式」と呼んでいる

これあればこれあり、これ生ずればこれ生ず

これなければこれなし、これ滅すればこれ滅す

7. 十如是

(1) 経文

妙法蓮華経方便品に、次の一節があります。

「やめよう。舎利弗。これを説明してみても、わかるはずがないとおもいます。なぜならば、わたしが究めた真理というものは、仏と仏のあいだでしか理解することのできないものであるからです。

それは、この世のすべての現象(諸法)には、もちまへの相(すがた形)があり、もちまへの性(性質)があり、もちまへの体(現象のうえでの主体)があり、もちまへの力(潜在能力)があり、その潜在能力がはたらきだしていろいろな作(作用)をするときは、その因(原因)・縁(条件)によって千差万別の果(結果)・報(あとに残す影響)をつくりだすものであるが、それらの変化はただひとつの真理にもとづくものであり、現象のうえでは千差万別に見えるけれども、その相から報まではつねに等しい(本末究竟等)のである……ということです」(庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』佼成出版社、p. 32)

(2) 十如是

漢訳經典に「所詮諸法の如是相・如是性・如是体・如是力・如是作・如是因・如是縁・如是果・如是報・如是本末究竟等なり」とあり、「如是」が十回繰り返されることから「十如是」と呼ばれています。十如是も、「縁起の法」の表現のひとつです。

(3) 諸法

この場合の「法」は「現象」という意味です。仏教でいう現象は、私たちの感覚・知覚で認識できるものごとです。「諸法」とは、「すべての現象」です。

(4) 関係・変化

ここに「因(原因)・縁(条件)によって千差万別の果(結果)・報(あとに残す影響)をつくりだす」とあります。これは、「ものごとは関係しながら変化する」ということを述べていると思います。

8. 十如是で人間を考える

(1) 相・性・体・力

「もちまへの相(すがた形)」「もちまへの性(性質)」「もちまへの体(現象のうえでの主体)」「もちまへの力(潜在能力)」とあります。

人間に即して言えば、次のようになります。

相：その人のすがた形

性：その人の性質

体：そのようなすがた形をしてそのような性質を持ったその人

力：その人のもつ潜在能力

(2) 作

「作」とは「潜在能力のあらわれてとしての、さまざまな作用(はたらき)」です。

人間に即して言えば、その人の身の振る舞い、言葉の振る舞い、心の振る舞いが、その人の作用(はたらき)です。

(3) 因・縁・果・報

「その因(原因)・縁(条件)によって千差万別の果(結果)・報(あとに残す影響)をつくりだす」とあります。

例えば、次のようなことが起ります。

- ① ニュートン(原因)が、リンゴが木から落ちるのを見て(条件)、万有引力を発見し(結果)、科学の発展に寄与しました(影響)。
- ② ある主婦(原因)が、折り込み広告を見て(条件)、買い物に出かけ(結果)、経済的な買い物をしました(影響)。
- ③ ある人(原因)が、学校に入り(条件)、勉強して卒業し(結果)、仕事に就きました(影響)。

(4) 本末究竟等

「それらの変化はただひとつの真理にもとづくものであり、現象のうえでは千差万別に見えるけれども、その相から報まではつねに等しい(本末究竟等)のである」とあります。

「本」は「始め」、「末」は「終り」、「究竟」は「研究し尽くす」と解釈できます。

この理論の始め(相)から終り(報)までを研究し尽くしますと、すべて、ただひとつの真理(縁起の法)によって生じていることが分かります。このことを「等しい」と言っています。

8. ビジネス縁起観

(1) ビジネス縁起観

現代の経営者・ビジネスパーソンのために、「縁起の法」をベースにした実践理論を開発し、「ビジネス縁起観」と名づけました。

(2) 基礎理論

「縁起の法」を現代風に表現して、「ビジネス縁起観の基礎理論」としています。

原因・結果の原理

現在の二つの顔の理論

原因・条件・結果・影響の原理

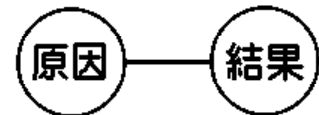
9. 原因・結果の原理

原因を作れば、結果がでます。

結果があるからには、原因があります。

結果を出したければ、原因を作ればいいのです。

結果を出したくなければ、原因を作らなければいいのです。



10. 現在の二つの顔の理論

「現在」は、二つの顔を持っています。

(1) 第一の顔

第一の顔は、「結果」という顔です。

今、起きていることが「結果」です。

過去にしたことが「原因」です。

この「原因」「結果」は取り消すことができません。

しばしば、過去にしたことや現在起きていることを、取り消したい、変えたいと思う人がいます。これは、できないことを望んでいるのです。

(2) 第二の顔

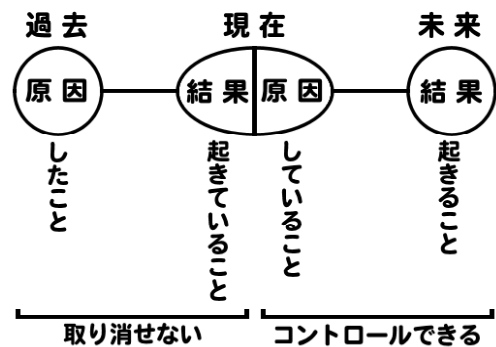
第二の顔は、「原因」という顔です。

今、していることが「原因」です。

未来に起きることが「結果」です。

この「原因」はコントロールできますから、結果をコントロールすることができます。

しばしば、これから先はどうなるのだろうと不安を抱くばかりの人がいます。それよりも一歩前進の目標を考え、そのための努力をしたほうがいいのではないのでしょうか。



1.1. 原因・条件・結果・影響の原理

(1) 原因・条件・結果・影響の原理

十如是から「因縁果報」の部分抽出して、原因・条件・結果・影響の原理としました。

原因：あらゆるものごとには必ず原因があります。

しかし、原因だけでは何も起こりません。

条件：あらゆるものごとには必ず条件があります。

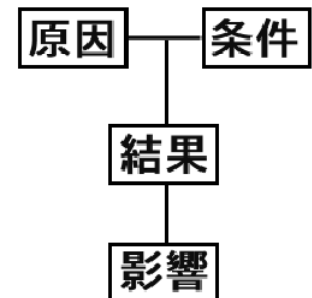
しかし、条件だけでは何も起こりません。

結果：原因と条件が出会うと必ずなんらかのものが起こります。

起きたものごとを結果といいます。

影響：結果がそれだけで終わることはありません。

必ずあとあとに影響を残します。



1.2. 理論

原因・条件・結果・影響の原理から次の理論が導き出されます。

これらを活用することによって、ものごとをより良い方向に導くことができます。

理論 1

- A：原因と条件が出会えば、なんらかの結果がでます。
- B：結果が出ているからには、なんらかの原因と条件が出会っています。

理論 2

- A：原因または条件の一方が変われば、結果は変わります。
- B：原因も変わらず、条件も変わらなければ、結果は変わりません。

理論 3

- A：条件が変わったけれど、結果を変えたくないときは、原因を調整します。
- B：原因が変わったけれど、結果を変えたくないときは、条件を調整します。

理論 4

- A：条件は変えられないけれど、結果を変えたいときは、原因を変えます。
- B：原因は変えられないけれど、結果を変えたいときは、条件を変えます。